

学校給食費の無償化は

初の実施へ予算を計上



質問 本市はこれまで、子育て支援策が先進的に実施されてきたと思うが、どうか。
答弁 ふるさと納税を財源

に子育て応援クーポン券の交付、第三子以降の保育料無償化、18歳までの医療費助成などに取り組んできた。

質問 これらの施策を市長選で「バラマキ」と批判したと聞いているが、今後の考えは。

答弁 令和5年度の高校入学者時の子育て応援クーポン券の助成など、今後も保護者の負担軽減に配慮していく。

質問 学校給食費全額無償化は憲法26条「義務教育は無償」ということから画期的だと思ふ。実施はどうか。

答弁 家計負担軽減のため、県内市で初の学校給食費完全無償化に向け、新年度予算案に関連予算を計上した。

質問 保育所(園)の米飯導入はどうか。

答弁 すべての児童に毎日、温かい主食を提供するた

め、市保育協会とも協議し、実現に向け検討する。

質問 出産一時金の上乗せはどうか。

答弁 現行の42万円から50万円に国民健康保険条例を改正する。出産・子育て応援給付金の周知を図る。

在宅介護対象の拡大を

質問 介護施設に入所できず、在宅で苦労されている家庭のため、在宅家族介護手当支給事業の基準を変えるべきではないか。

答弁 本市の特養ホーム入所待機者は64人、うち在宅待機者は21人。手当対象者の拡大などを検討していく。

高齢者にやさしい交通は

質問 一部地域でバス停までの距離が遠いなど、バス利用の困難者が少なくない。高齢者のためのやさしい取り組みは。

答弁 令和5年度策定の計画で検討し工夫していく。



学校給食費が無償に(学校給食センター)

と納税などの増収が要因と考えている。

本市の財政状況は

震災前に比べ大幅に改善



質問 震災前と比較した本市の財政状況分析は。

答弁 震災前に比べ、実質公債費比率は19・1%か

ら14・5%に、市債残高は175億円から135億円となるなど大幅に改善している。歳出の抑制、ふるさ

と納税などの増収が要因と考えている。

質問 市長は本市財政をどのように考え、市民の思いをどのように捉えているか。

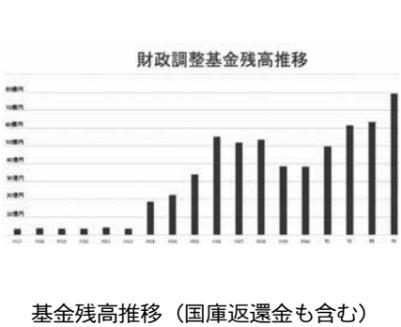
答弁 財政への心配は特に感じていない。市民からは人口減、産業衰退の中で希望を見出したいという思いを感じている。

準がないと議論できない。基準を定めてはどうか。

答弁 経済成長が起きている時代とは異なる。財政の硬直化を避けるためにも指針を決めるべきではない。

質問 中期的な財政計画を作るべきではないか。

答弁 コロナ、ウクライナ情勢などで予想が難しい。一



方で、令和5年度から固定資産税の震災による減免が終了するので、その後であれば策定の可能性も検討できる。

生産額の倍増策は

質問 公約で農林水産業生産額倍増とあるが、現状はどうか。

答弁 農業9億4100万円、水産業18億円、林業4億

600万円となっている。

質問 挑戦的な目標だが、起きうる負の面も想定し取り組むべきだと思ふがどうか。

答弁 伝統的な産業の中で新しいことをするために既存の事業者との摩擦が予想されるが、十分に配慮して公約の実現に向けて進んでいきたい。

復興の教訓次世代へ

復興対策特別委員会



木村 聡 (翔成)

復興対策特別委員会(大坂俊委員長、議長を除く全議員で構成)は3月16日、市役所の委員会室で「東日本大震災復興記録誌(仮称)」について調査しました。

この記録誌は、本市が東日本大震災以後の復興過程で得た経験や教訓を市内外や次世代へ伝え残そうと作成するもので、3月13日の復興対策特別委員会理事会で、菅野誠建設部長から趣旨や概要、仕様、スケジュールなどの説明を受けました。

その中で、市議会編は震災発災からの議会の主な動きを掲載することを確認。具体的には▽震災発災時の初動対応▽応急対応▽復興計画の推進と議会活動などについて、当時在籍していた議員から聞き取りしながら所感をまとめることにしました。

また、最後には復興計画や復興事業の完了に伴い、議会としての総括を記載することを目指しました。

記録誌の作成は本市の復興の歩みを後世に残すという大

変重要なことであり、今後被災地の責務として、伝え続けていくことが重要だと思っています。(大坂俊委員長)



震災後初の臨時会(高田一中)

トルコに義援金

本市議会は、2月6日の大地震に見舞われたトルコ共和国に対し、駐日大使を通じて義援金20万円を届けました。

います。被災者の支援に少しでも役立ててください」ととコルクット・ギュンゲン大使に義援金を寄託しました。

福田利喜議長は2月21日、東京都千代田区の全国都市会館で行われた全国市議会議長会の建設運輸委員会へ出席するために上京した際、駐日トルコ共和国大使館を訪問して、「東日本大震災時には大変お世話になりました。一日も早い復興を願って

